

# 山形麻酔懇話会 退任記念講演会

守  
破  
離

日時： 令和5年3月18日（土） 14:30より

場所： 天童ホテル  
3階コンベンションホール「鳳凰」

山形麻酔懇話会 会長 川前金幸  
(山形大学医学部麻酔科学講座 主任教授)

事務局 山形麻酔懇話会・退任記念講演会  
発起人 中根 正樹

〒990-9585 山形市飯田西 2-2-2

TEL 023-628-5400 FAX 023-628-5402

# 山形麻酔懇話会・退任記念講演会

日時： 令和5年3月18日（土） 14：30より

場所： 天童ホテル コンベンションホール「鳳凰」

主催 山形麻酔懇話会

## 【受付】

場 所：天童ホテル 3階コンベンションホール「鳳凰」

時 間：13:30より

参加費：10,000円（祝賀会参加者は無料）

## 【演者の皆様へ】

発表者はすべてPCプロジェクターで行っていただきます。スライド原稿はWindows版、PowerPoint2003以降のファイルをご準備ください。ファイルはUSBメモリーに保存しお持ちください。Macでご発表される方はパソコンのお持ち込みをお勧めします。

## 【会場】天童ホテル



### 天童ホテル駐車場のご案内

**P** 天童ホテル駐車場（全250台）

至天童駅  
至天童  
至山形  
至国道13号線

### ○ 駐車場のご案内

当館の駐車場は、ホテル周辺にございます。ご来館の際は、ホテル玄関までお車で越し下さい。スタッフが駐車場をご案内致します。

駐車料金	無料
駐車台数	約250台（大型バス約50台駐車可）

## 会長挨拶

山形大学医学部副医学部長  
麻酔科学講座主任教授  
川前金幸

この度は退任記念講演会、並びに祝賀会を企画して頂き誠にありがとうございます。半年前に幹事のスタッフから講演の講師の選出について相談がありました。山形大学医学部で20年を超える教授職に携わり、様々な方々に出会い、ご支援、ご協力を頂きました。精神的にも肉体的にもギリギリの時に、ふと我に返って、思い出ただけでも勇気が湧いてくるそんな先生にお話を頂けたら良いと考えました。

一人目は、剣道八段師範、日本医師剣道連盟会長の野見山 延 先生です。彼は日本剣道連盟の主治医でもあります。そして、日本麻酔科学会の理事、事務局長を務め、公益社団法人の立役者です。その気迫と信念、先見の明にはいつも拝礼しておりました。

二人目は、急性期医療のパートナーでもあるフリップ社の社長を務めていた堤 浩幸 氏です。ホーム AED の開発に漕ぎつけ、山形で最初に販売を開始しました。現在は富士通の執行役員として日本の産業界をリードしています。医療を取り巻く世界を熟知されております。

三人目は、日本集中治療医学会理事長の西田 修 先生です。私と同じ麻酔科医で、日本呼吸療法医学会を始め、日本集中治療医学会の危機管理委員会等でも議論を重ねてまいりました。現在、日本集中治療医学会を改革し、専門医制度のサブスペシャリティの取得、診療科としての認定、各種委員会の改変など積極的に進めています。睡眠時間数時間でも平気というバイタリティあふれるリーダーです。

三名ともご快諾頂きました。厚く御礼を申し上げます、また、このような機会を頂き、皆様と共に「勇気」を共有できますこと、心からお喜び申し上げます。皆様におかれましては、年度末のお忙しい中ご臨席賜りまして、心から感謝申し上げます。

# プログラム

14:30 開会挨拶

山形麻酔懇話会会長 川前 金幸  
(山形大学医学部麻酔科学講座 主任教授)

## 【来賓挨拶】

山形大学医学部長 上野義之  
一般社団法人日本麻酔科医会連合 事務局長 森田 潔

【記念講演】 14:45-17:00

## 【記念講演①】 14:45～15:15

『剣医一道、麻酔臨床と剣道実地に共通するもの』

演者：野見山 延 (NH0 静岡医療センター名誉院長、剣道教士八段)

座長：阿彦 忠之 (山形県健康福祉部医療統括監)

## 【記念講演②】 15:20～16:05

『これからの医療におけるデジタルトランスフォーメーション』

演者：堤 浩幸 (富士通株式会社 執行役員 SEVP JAPAN リージョン CEO)

座長：村上 正泰 (山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 教授)

～ 休憩 ～

## 【特別講演③】 16:15～17:00

『我が国の集中治療と日本集中治療医学会の発展に向けて』

演者：西田 修 (一般社団法人 日本集中治療医学会 理事長)

座長：山蔭 道明 (公益社団法人日本麻酔科学会 理事長)

17:00 閉会の挨拶

山形大学医学部附属病院 病院長 佐藤慎哉

※終演後1階ラウンジにて記念撮影を行いますのでお集まりください。

# 記念講演

【記念講演①】 野見山 延先生『剣医一道、麻酔臨床と剣道実地に共通するもの』

ご略歴

＜ご職歴＞

昭和 44 年 3 月九州大学医学部卒業、同麻酔科入局

同 11 月北里大学病院麻酔科病棟医

昭和 50 年 4 月北里大学医学部講師

昭和 60 年 1 月 同 助教授

平成 3 年 1 月 国立立川病院副院長

国立佐渡療養所長、国立長野院長などを経て

同 17 年 8 月 1 日国立病院機構静岡医療センター院長

同 22 年 3 月 31 日同病院定年退職後、名誉院長、非常勤勤務

同 27 年 7 月 1 日徳洲会湘南鎌倉総合病院嘱託勤務、現在に至る

＜剣道歴＞

昭和 37 年福岡で剣道入門

昭和 61 年 5 月 20 日剣道教士

平成 27 年 5 月 2 日剣道八段

現在 全日本医師剣道連盟会長、神奈川県剣道連盟副会長、全日本剣道連盟医科学委員、公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ（医・科学スタッフ、剣道競技）、正念塾柚木道場剣道師範

## 【記念講演①】

### 剣医一道、麻酔臨床と剣道実地に共通するもの

NHO 静岡医療センター 名誉院長

剣道教士八段

○野見山 延

私が麻酔科に入局し、麻酔を始めたころのモニターは手動式血圧計と聴診器（胸部貼り付け or 食道内）のみが一般でした。心電図は重症例のみ、観血式動脈圧測定は心臓外科、食道外科のみ使用可能で、酸素飽和度計や呼気炭酸ガス濃度の測定などアイデアの段階です。今はモニターに囲まれ、そのなかで（頼りっきりになりながら）麻酔をしていますので、アラームに誘導されているような感じもします。ちょっと言いすぎですが、若い先生をみているとモニターや機器を使いこなしているようで、実は機器頼り、機器が麻酔をしているような気がします。

私も同じような感じですが、その中で日々感じる剣道修行のなかで得られ、麻酔をするうえで役立っていることにつきお話をさせていただきます。

皆さんご存じと思いますが江戸時代初期に沢庵禅師という方がいました。権力にへつらうこともなく、富も栄誉も求めず、禅の修行にいそしまれた方で、吉川英治氏の宮本武蔵で一般に知られるようになった方です。ただ宮本武蔵との関係は吉川英治氏の創作で時代的には一致するものの関係はなかったとされています。一方、柳生宗矩とは親しく、剣と禅とは共通するものがあるとして不動智（神妙録）と呼ばれている文を送っています。

剣道でも、またいろんな場面で使われる言葉に不動心という言葉があります。不動心とは文字通り、動かない（動揺しない）心、動かされない心という意味です。剣道でも重要な言葉で心動かざれば負けなし、ともいわれます。不動智とはとどまらない、居つかない心という意味です。不動心の心が心理的要素が大きいのに対し、不動智の場合は智という言葉で充てているように意識、脳の働きという要素が強い言葉です。不動心の心は受動的部分があり、不動智の心は能動的ともいえます。

また應無所住而生其心（金剛経）という言葉も不動智を得るために重要と沢庵禅師が諭しています。当日は不動智という言葉の意味するところ、それが私が麻酔をするうえでどう役立っているのかなどについてお話しさせていただきたいと思います。



【記念講演②】 堤 浩幸執行役員

『これからの医療におけるデジタルトランスフォーメーション』

ご略歴

<ご学歴>

昭和 60 年 3 月 慶應義塾大学理工部機械工学科卒業

平成 19 年 8 月 米国スタンフォード大学ビジネススクール

エグゼクティブプログラム 修了

<ご職歴>

昭和 60 年 4 月 日本電気株式会社

平成 16 年 1 月 シスコテムズ株式会社

(2007 年 10 月 シスコテムズ合同会社に名変更)

平成 18 年 10 月 同社 取締役

平成 21 年 10 月 シスコテムズインク バイスプレジデント

シスコテムズ合同会社 上席副社長

平成 27 年 12 月 サムスン電子ジャパン株式会社

代表取締役 最高経営責任者 ( CEO )

サムスン電子 EVP

平成 29 年 3 月 株式会社フィリップス・ジャパン 代表取締役社長

フィリップス・レスピロニクス合同会社 職務執行者社長

(2019 年 4 月 株式会社フィリップス・ジャパンに統合)

ロイヤルフィリップス シニアバイスプレジデント

令和 4 年 4 月 富士通株式会社 執行役員

SEVP Japan リージョン CEO

現在、IT 事業に長年携わり、日本、欧米、アジア企業においてグローバルなマネジメントを経験。

## 【記念講演②】

### これからの医療におけるデジタルトランスフォーメーション

富士通株式会社 執行役員 SEVP JAPAN リージョン CEO

○堤 浩幸

コロナを契機とした社会の変化は医療業界にも大きく影響を与えています。

なかでも DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した AI、データドリブンの進展は、個人の健康の見守り、予防、診断、治療、ホームケアはもちろんのこと、「人流」と呼ばれるビッグデータの分析など、様々なシーンで活用されるようになりました。

一方でランサムウェアに代表されるセキュリティ被害の事例も多くなっています。医療業界でも大きな課題として今後取り組みを強化し対策を練っていかねばなりません。

今まさに DX の進展により、我々の生活、医療業界は大きな転換期にあります。さらに先行きが不透明な時代において、持続可能性を重視した SX（サステナビリティトランスフォーメーション）も同時に考えなくてはなりません。

今回は DX、そして SX を駆使した社会課題の解決法並びに価値創造を具体的に示すとともに、特に将来の医療業界のあり方を皆様とともに検討できれば幸いです。

【特別講演③】 西田 修先生

『我が国の集中治療と日本集中治療医学会の発展に向けて』

【プロフィール】

1986年名古屋市立大学卒。同助教授、愛知厚生連海南病院集中治療部・麻酔科・手術部部長を経て、2008年藤田医科大 医学部麻酔・侵襲制御医学講座を開講（初代教授）、集中治療部新設。2015～2017年副院長

【学会活動など】

- ・日本集中治療医学会理事長
- ・日本急性血液浄化学会理事長
- ・COVID-19 有識者会議構成員
- ・SSCG2016 日本代表委員、J-SSCG2016 作成特別委員会委員長、J-SSCG2022 担当理事はじめ国内外多くの診療ガイドライン作成に携わる。

★2020年6月、秋篠宮皇嗣同妃両殿下に、「新型コロナウイルス感染症と集中治療」のご進講を行った。

## 【記念講演③】

### 我が国の集中治療と日本集中治療医学会の発展に向けて

一般社団法人日本集中治療医学会 理事長

藤田医科大学医学部 麻酔・侵襲制御医学講座

○西田 修

集中治療の始まりの一つは、1950年代初頭、ポリオが大流行していたデンマークコペンハーゲンとされる。図らずも、COVID-19パンデミックは、集中治療の重要性を広く世に知らしめるきっかけになったが、本邦においては、我が国の集中治療のレベルの高さが示される一方で、その医療提供体制の脆弱性も露見することとなった。

しかしながら、今回のパンデミックが、我が国の「集中治療」にとって単純に追い風となったわけではなかった。一般市民・マスコミのみならず行政においても、もっと言えば医療界においても、「集中治療」と「救急医療」と全く区別がついていないのが現状であった。メディアでも、「集中治療医」の言葉が放送直前に「救命救急医」に変更されて放送された。理由は、「その方が一般人に分かりやすいから」といわれた。機構においても、その専門性が疑問視され壁も厚かった。医師届出票に「集中治療科」は含まれておらず、医師働き方改革の調査でも対象外となっているなど、国においても存在感はなかった。

パンデミックの襲来と同時に理事長になった私は、2020年4月1日に理事長声明を出し、我が国の集中治療医療提供体制がパンデミックに脆弱であると訴え、リソースの有効活用をはかるために診療報酬の特例措置を要望し、医療提供体制のあり方の提言を継続して行って来た。精力的にロビー活動や署名活動を行い、行政などの要望にも応える努力を行って来た。提言の内容を机上の空論に終わらせないために、「看護師」「臨床工学技士」の認証・認定制度を関連団体の理解と協力を得て発足させるなど学会自ら医療提供体制にかかわる取り組みを行ってきている。

今回、集中治療科領域は専門医機構サブスペシャリティ領域として認められた。令和4年の診療報酬改定では、要望の多くが認められた。また、医師届出票にも「集中治療科」が盛り込まれる方向で調整が進んでいる。本学会の取り組みと将来について、学会自体の改革についても触れながらお話しする。

## 山形麻酔懇話会・退任記念講演会

<協 賛>

旭化成ファーマ株式会社

一般社団法人三友堂病院

医療法人社団 小白川至誠堂病院

医療法人 篠田好生会 篠田総合病院

株式会社アルム

株式会社シバタインテック

公立学校共済組合 東北中央病院

地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院

鶴岡市立 荘内病院

ドレーゲルジャパン株式会社

日本海総合病院

日本光電工業株式会社

ビー・ブラウンエースクラブ(株)

フクダ電子南東北販売株式会社

丸石製薬株式会社

丸木医科器械(株)

みゆき会病院

ムンディファーマ株式会社

ご協賛いただきました皆様へ感謝申し上げます。  
ありがとうございました。

発起人 中根正樹



～薬局員からのメッセージ～



【夜までに入局】



黒木 雅大

月日が流れるのは早いもの。私が入局した当初、川前教授は60歳手前でありご退官される日は遠いのも感じていた。気づけば、もう、である。しかし、不思議と寂しい気持ちはない。決してネガティブな意味ではなく、むしろ逆となる。なぜだろうか。退官後も当講座と関係がなくなるわけではない、というのもあるが、この6年間で数えきれないほどの金言をいただき、私の心の中に常に存在するからである。その一つに「ピンチはチャンス」、、、、チャンスはピンチ、とまではおっしゃってはいないが、何か困難な事に出会ったとき、決して逃げることはせず、きちんと向き合い、転んでもただでは起きず、むしろ感謝の気持ちで、ということだろう。川前教授がご退官の今、まさにピンチである。今こそ、いただいた言葉を胸に、前に進むこと、後輩たちへ伝えていくことで、教授への恩返しができるのではないか。と、振り返ってみると、やっぱり、寂しい気持ちである。

【長い間、お疲れ様でした】

岡野 駿介

一般的な教授のイメージは強面で気難しいものだと思いますが、先生は全くそんなことはなく、気さくに声をかけてくださいますしこちらからも相談しやすい、人間性の高い方でした。今の和やかな麻醉科の雰囲気があるのも、先生の人間性あってのものだと思います。1番の思い出は、2018年にサンフランシスコで開催されたASAに参加させていただいたことです。英語が苦手な私は、タクシーに乗るだけでもアタフタしてしまうのですが、先生は巧

みな英語力で運転手の方とも冗談を言い合う余裕があり、格好良かったことを思い出します。

先生が進めて下さった働き方改革のおかげで、以前にくらべて今は働きやすい環境になりつつあると感じています。先生も今までは教授というお仕事柄ご多忙だったと思いますが、今後はよりご自身を大切になさっていただくようお願いしております。

本当にありがとうございました。



### 【川前教授の支援 ～感謝の気持ちを込めて～】

早坂 達哉

今から5年前、私が人工知能の研究を志した時、医療業界におけるAIの活用はまだ注目されておられませんでした。そのような環境の中でも、川前教授は私の研究に興味をもってくださり、全面的に支援してくださいました。それにより私は博士号を取得することができ、今もなお医療AI研究を続けることができています。いつ日の目が当たるかも分からない研究にご支援いただき、希望を与えてくださったことに心から感謝申し上げます。

研究活動においてはYU-COE（先進的医療拠点）として活動させていただき道を後押ししていただきました。その活動の中で私は山形大学における学際的連携を図ることができ、多くの学科や学部と交流し様々な医療AI研究を進める環境を整えることができています。また、拠点においては学生教育にも力を入れており、教授が教えてくださった「明るく、楽しく、元気よく伝えることの大切さ」を忘れずに、学生たちを活気に満ちた人材へと育てていくことをお約束いたします。

今の私があるのは教授のおかげであります。教授がご退官されることは寂しいですが、教授からのたくさんの教えを忘れることなく、「三方よし」の精神で社会に貢献できる研究を続けて参ります。本当にありがとうございました。

### 【定年御退官誠におめでとうございます】

関口 香

そして長年に渡り勤務を無事に勤められましたこと、心よりお慶び申し上げます。



私が川前先生と一緒にできた時間は僅かでしたが、ひとかたならぬご厚情とご指導を賜り、深く感謝しております。私が今こうして山形大学の麻酔科で働くことができているのは、川前先生のおかげに他なりません。私が大学院卒業後の進路で悩んで知る際、突然のお願いにもかかわらず、快く相談にのってくださり、手を差し伸べていただけたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。入局後も何かと気にかけてくださり、手術室でお会いする度に温かい言葉や励ましのお言葉をたくさんいただきました。

川前先生からいただいたこの貴重な機会を無駄にすることなく、日々精進して参りたいと思います。

川前先生の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



### 【川前先生との12年を振り返って】

松浦 優

医学生になったころは麻酔科という存在自体も認知しておらず、まさか自分が麻酔科医に進むことになるとは予想もしていませんでした。私が麻酔科に興味を持ったのは医学生のポリクリで研修をした時でした。その時にはすでに川前先生が麻酔科学講座の教授をしており、実際に臨床にふれることで興味が深まり、学生・初期研修医時代から声をかけていただきお世話になっておりました。麻酔専門医・指導医を取得させていただくまでご指導いただき本当にありがとうございました。高圧的に何かを言われた記憶は全くなく、医局員の意見を聞き尊重していただいたため、のびのび業務をさせていただき、研鑽を積めたのは川前教授のおかげとっております。全国各地さまざまな学会など飛び回っている姿を見ると、とても退官なさるとは思えない若々しさだったと最後まで思わせていただきました。

今後も拠点は変更なさるそうですが、今まで以上にパワフルに活動なさると伺っております。ますますの発展ご活躍を心より願っております。

### 【川前先生、ご退官おめでとうございます】

黒川 まい

学生時代の就職活動の際よりご厚意を賜り、他大学出身の私を山形大学医学部麻酔科学講座の一員として温かく迎えてくださったこと、大変感謝しております。

入局後も、同窓の皆様と麻酔を共にし、麻酔の楽しさ、難しさ、奥の深さを探求することに夢中になることができたのも、先生のおかげだと思っております。

国内外の学術集会へ参加させていただいたり、県内さまざまな医療機関で経験を積ませていただいたりと、とても貴重な経験をさせていただいたことも大変ありがたく思っております。

その中でも、いつも先生の人脈の広さ・探究心の強さには大変驚かされておりました。それらは一朝一夕で形成できるものでは到底なく、先生の日々の鍛錬の賜物だったのだと拝察しております。

今後も先生の益々のご健勝をお祈りしております。



### 【川前教授ご退官に寄せて】

成澤 あゆ香

川前教授が当麻酔科の教授にご就任された2006年、私は医学科5年生だった。その頃は救急医学講座との兼任で激務だったと教授自身が仰るとは最近知ったが、大勢相手していたという学生の一人に自分もいたのかと懐かしく思う。そして麻酔科教授に専従された2008年、麻酔科医になると決めた私の医師人生が始まった。当時は麻酔科医が本当にいなかった時代で、入局を教授はじめ医局の先生方がそれはそれは歓迎してくださったことを覚えている。こうして振り返ると、自分の麻酔科医としてキャリアは川前教授の歩みと共にご指導いただいていたのだと感慨深く思った。

教授室に呼びつけることなく、自ら私達の元に出向いてくださる先生だった。教授だからという垣根を感じず遠慮なく自分の考えをお伝えしていたが、本来それを皆が受け入れるわけではないし、ありがたい環境だったと思う。益々のご活躍をお祈りし、お世話になった全てに感謝申しあげたい。

### 【川前先生ご退官に寄せて】

添川 清貴

川前先生今までお世話になりました。

僕は学生の頃、教授への質問のSGTで川前先生に、「どうやったら教授になれますか？」と質問をしました。学生時代不勉強だった僕は麻酔についての知識がなく、苦し紛れにした質問でした（笑）。しかし先生はとても興味を持ってくださり、「君は教授になりたいのか？

ぜひ麻酔科に来ないか？」ととても話が弾んだのを覚えています。そんなご縁もあり麻酔科に無事入局し、専門医試験まで終えることができました。先生には普段の麻酔や研修先の相談、学会発表のご指導などたくさんお世話になりました。また結婚式の上司挨拶など、個人的にもとてもお世話になっており、感謝の気持ちでいっぱいです。先生のように教授という少し離れたポジションでも医局員一人ひとりを思いやり、陰から物事がうまく進むよう取り計らっている姿は真似しようとしてもなかなかできないことだと感じています。先生のような立派な医師になれるよう日々精進してまいります。この度は誠にありがとうございます。



【川前教授ご

退官に寄せ



て】

森谷 真知佳

川前先生との出会いは学生時代の救急医学講義で、部位別救急疾患の寸劇を学生に発表させるというユニークな講義でした。

「右上前腸骨棘と臍を結ぶ線を3等分して右から3分の1の点を押すと痛いすう！」といった学生の熱演をニコニコしながら見ていたお姿が思い出されます。「困ったら何でも連絡ください。」と講義の締めにおっしゃり、妖精のような先生だなと思ったことを覚えています。数年後、麻酔科専攻医として再会した時には、常に新しいことや興味深いことを見つけ、突き進み、個性あふれる麻酔科軍団を円くして率いるエネルギーに満ちたお姿でした。何度もドロップアウトしかけた私を円に引き戻してくださり、いつも温かい言葉をかけてくださいました。川前先生がよくおっしゃっていた「明るく、楽しく、元気よく」と山本五十六語録は、これからも心の支えとして後輩に伝えていきたいと思っております。ご活躍をお祈りいたします。

【川前先生、この度はご退官おめでとうございます】

黒田 美聡

入局して11年が経ち、先生のご指導のもと専門医、指導医となることができました。気がつけばいつの間にか中堅という立場になりましたが、先生のご指導を忘れずに、幾つになっても謙虚に新しいことを吸収し学んでいく姿勢で頑張っていきたいと思っております。

先生とはヨーロッパの学会に3年間参加したことが良い思い出です。日頃ご多忙な先生とゆっくりお話ができる良い機会であったと共に、海外に行っても多くの方と積極的に意見交換をする姿勢を拝見する度に刺激をいただいております。勉強した後には観光もというこ

とで、飛行機のトランジットの合間にパリを散策し、数週間後に火災に見舞われてしまったノートルダム大聖堂のミサを見学できたのも忘れられない思い出です。

ご退官となられた後も、益々のご活躍とご健康を祈念いたしております。ご指導本当にありがとうございました。



【川前教授ご退官に寄せて】

長岡 唯

私が秘書として雇われ初めての懇親会時、「好きな聖書の言葉は何か？」と問われ、「求めよ、さらば与えられん」とお答えしその場の空気が一変したことを思い出します。奇遇にも川前先生もこの言葉が好きな聖書の言葉だったようで…その後の波長がばっちり合ったのは言うまでもありません。かなり心配になる状況を多く見てきましたが、すべてピンチはチャンス！と心配するだけ無駄で事なきを得、いつしか私まで「大丈夫！大丈夫！」と根拠なき自信を持てるようになりました。大変感謝しております。

川前先生の超訳聖書の言葉「求め続けなさい、そうすれば必ず与えられる」を好きな聖書の言葉にします。ますますのご活躍お祈りいたします！！

【川前教授ご退官に寄せて】

飯澤 和恵

今、医療の現場での働き方改革を、組織全体で進める動きがあります。（でも、病院の大きな組織としてはなかなか、、、）

2008年に川前先生が麻酔科の教授になられた当時、麻酔科は女医さんが多い点で、他科よりはましだったのでしょうが、子供を育てながら医師を続ける事の精神的肉体的ストレスは、思い出すと、つい最近まではムカムカと気持ち悪くなるくらい体調不調を感じました。

我ながらなぜ続ける事ができたのか。それは一重に、川前先生の温かい応援があったからこそ、です。周囲にはわがままと思われる事も、川前先生は、認めて、応援してくれました。いつも守られている気がしました。ふと気付けば、麻酔科の医局には、なんて優秀な若

い女医さん達がいるのでしょう。いや、待てよ、男性陣も素晴らしい。男女問わず、子供いるいないに関わらず、人間的に魅力溢れ、なんと優秀な方々でしょう。

何となくこれならいいか、のようなアバウトな感じが良いのか、はたまた、まあ、やってみたら？的なゆるい感じが良いのか。経済面での保証も大きいでしょう。兎にも角にも、今の医局は活気があって素晴らしい。

この医局を作り上げた川前先生が退官されるのは、とても不安です。でもきっと、自立している医局メンバー達はこれからもそれぞれで、時には協力しあって、力を発揮していくでしょう。

川前先生の働き方改革ナイスです！

これからもお身体に気を付け頑張って下さい！

